

名戸ヶ谷ビオトープだより

第19号

2006年6月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

ぬるぬるして気持ち悪いけどあったかいよ

水田稲作部会

連休後半の5月6日に「代掻き」を行いました。水田は土が軟らかく、耕運機のかご付き車輪で粉々になり、最後に「均し板」で仕上げました。そして、名戸ヶ谷小学校児童による田植えが行われる5月9日(火)の早朝に「おさ」で線を引き、児童たちを待ちました。

9時頃に5・6年生約130人が担任・教務主任・教頭を含む6人の先生方と一緒に到着。木村さんの作業場前に集合し、諸注意を受けたあと、児童の実行委員会が事前に作成して全員に配布してあるハンドブック「田植えの手引き」に基づいて2班に分かれて田植えを開始しました。



諸注意をする篠崎会長



線からはずれる子、10本ほど束で植える子、尻餅をつく子……なかなか大変でした。でも1時間ほどで無事終了し、田植えの終わった田圃にはカルガモのペアが早速餌を捕りに入っていました。なかなかきれいにできた田圃もあり、「きれいにできたね」と名人の増田さんも褒めていました。そして、「田植えで土が掘り起こされて土の中から生きものが出てくるのをカルガモは待っているわけ」と解説してくれました。水田部会では5月21日に第1回目の植え直しを行い、線からはずれた分などを修正しました。

また、「とても苦労した」と実行委員長も述べていましたが、児童の田植え実行委員会では事前に名戸ヶ谷ビオトープを視察して班編成を考え、田植えの手順も書いた小さなハンドブックを全員分用意してありました。ビオトープを育てる会からは増田夫妻を中心とする水田稲作部会だけでなく、不耕起部会、植物部会からも大勢のみなさんの参加をいただきました。ありがとうございました。(小笠原 智)

ひとくちインタビュー から 広報編集部

水が冷たくて最初は嫌だなあと考えたけど、やってるうちに土の中はあったかくて気持ちよくなった。またやってみたい。

(5年女子)

泥の中はぬるぬるして最初は気持ちわるかったけど、すぐに慣れた。もう一度やりたい。(5年男子)

田んぼの中には小さいいきものがいっぱいいた (5年女子)

うまく植えることができたと思う。ちゃんと育つか。これからが楽しみ。(5年男子)

5年生の時にはちゃんと体験できなくて、このまま卒業するのは嫌だなあと考えていたので、今年は田植えを体験できて満足です(6年男子)



個性あふれる田植え終了

不耕起稲作部会

不耕起稲作部会の田植えは5月14日(日)、15日(月)の両日、窪田さん指揮の下で行われ、無事終了しました。線引きがないため各々が20センチの感覚を心に描いての田植えでした。曲がった自分の畝をこれは個性と笑いながら楽しく行いました。4年目の田植えのため慣れた手つき、とはいえ、この水田は粘る泥で、足を取られ尻餅をつく人もいて、笑いの多い活気ある田植えでした。初参加の方は田植えよりも粘る泥から足を抜くのに苦労していました。心配した天候にも恵まれて参加人数も多く、無理なく田植えができました。



15日(月)には名戸小から5年生児童36名が担任に引率されて不耕起稲作栽培の学習と田植え体験にやってきました。最初に篠崎会長から不耕起栽培について説明を受けた後、5名が代表して6番水田に入り、ピオトープ会員の指導の下、田植えを体験しました。水田が7枚から6枚に減ったので不耕起全体としては苗が余りましたが、他の場所でも有効活用したいと思います。

他の児童たちは畦の上からぐるりと取り囲むように観察しながら、各自持参した観察ノートに記録していました。

なお、この日の田植え用の不耕起の苗20枚の引き取りは5月7日(土)。小笠原さんの車で佐原市の藤崎農園に小笠原さん、窪田さん、篠崎さん、それに才川の4人で向き、イネミズゾウムシ対策を済ませてから引き取ってきました。岩澤先生は日本不耕起栽培普及会の講演・研究会に出席で会えませんでした。お会いした普及会の竹原事務局長からは、「来年は苗作り実習に参加ください。不耕起栽培の勉強と、それに仲間にも会えます」と言われました。来年は実現したいと思います。

また、合同作業日の5月20日(土)には、田植えが終わった不耕起の田んぼに米糠を散布しました。田圃への栄養補給はこれからの研究課題です。田植えが終わると、今後は水の管理が大事になります。みなさんで見回り、常に水位が保たれるようにしてください。(才川 寿磨)



木道2期工事完了

土木工事建設所長、山谷さんの指揮下で、4月1日から始まった木道第2期工事が4月9日午後完了し、



素敵な木道が出来上がりました。晴れた休日には幼稚園児たちが木道から竿を垂らしてザリガニ釣りを楽しんでいます。安全な木道がピオトープを子どもたちにより身近な存在にしていることが伺えます。また、4月30日にはピオトープの木製ベンチも一新し、上に飲み物が置けるようにすっかり綺麗になりました。こちらはプロの技をもつ小笠原さんの手になる労作です。

みなさん、ごくろうさまでした。(広報編集部)

合同作業の報告

植物部会

4月からビオトープの清掃と草刈を本格的に始めました。4月の作業日は14名の会員が参加して、主に清掃を行いました。オタマジャクシやドジョウが棲んでいる湿地北側の小さな池からはコンクリート片や木片が拾い上げられました。水路溝に詰まったゴミが取り除かれ湧き水の流れもきれいになりました。



5月の例会日は10名の参加があり、休耕田湿地に生え始めたヨシの刈り取りを行いました。途中の休憩時間は、お茶を飲みながらお互いの健康談義に花がさきましたが、これもまた例会日の楽しみの一つです。(佐々木光正)

ホタル・生きもの部会

生きもの観察会予定の5月27日(土)は生憎雨模様でした。そこで、観察会はホタル鑑賞などと併せて6月下旬以降にあらためて開催することとして、この日は集まった人たちで水田の水路やBゾーンの池などに網を入れ、水の中の生きものたちの様子を観察してみました。



水田水路では、まさに産卵しようとしているメダカを見つけました。メダカはこのまま定着していくのでしょうか？また、スジエビもお腹に沢山の卵を抱えた個体を確認しました。特に昨年からはスジエビを多く見ることができます。他に、名戸ヶ谷ビオトープではおなじみのシュレーゲルアオガエルやコガネグモが雨の中で静かにしているところを確認しました。

おまけですが、この日、自宅で蛹化させたヘイケボタルが一匹羽化していました。ヘイケボタルは上陸し地中で蛹になりますが、その上陸のための土を入れた水槽に幼虫を移してちょうど20日目でした。ビオトープに放流した幼虫も、環境がだいぶ違うので同じ時期に羽化することはないと思いますが、そろそろ期待できる頃となってきました。みなさんも時々、ビオトープにホタルが光っていないか、様子を見にきてください。(松清 智洋)



ビオトープの生きもの



アオダイショウ ヘビ科

体長 1~2.3cm. 尾の長さは体長の 1/4~1/5. 背面は緑褐色で 4 本の暗色縦条があり、目の前後と前頭部に暗色班紋がある。泳ぐことも出来るし木にも登る。湿った深い草の中にいることが多いが、春は日当たりの良いところに出てくる。カエル、ねずみ、小鳥を好んで食べる。毒はない。日本全国で見られるが、最近は少なくなってきており、千葉県では一般保護生物(D)に指定されている。5月20日ビオトープの草刈のとき、Aゾーンでも観察された。



カワセミ カワセミ科

コバルト色の背と橙色の腹をもったクチバシの長い美しい鳥。この色は他の鳥のように羽毛固有の色素ではなく構造色である。平地から山地の川、池、湖などに生息し、単独またはつがいで行動する。餌となる小魚などを取るときは垂直に水中にダイビングする。巣は垂直に近い崖に直径 4~5cm、深さ 1m 近い横穴を掘り、その奥に産卵する。ビオトープに巣はないので、ちかくの大津川から来るものと思われる。千葉県では要保護生物(C)に指定されている。(篠崎 将)

泥の中から学ぶ

名戸ヶ谷小の田植え当日、昔中原小学校校長時代に名戸ヶ谷ビオトープでの田植えを始めた大場さんにお会いしました。名戸ヶ谷小学校に転勤後は名戸小で田植えを続けました。名戸小5-6年生の田植えに駆けつけた大場さんに回顧談をお願いしました(広報編集部)



名戸ヶ谷ビオトープでの田植えは平成6年5月7日で、当時の中原小学校5年生165人の子どもたちとPTA役員、および土地所有者(木村由男さん)の皆さんのご協力のもとで始まりました。当時新教育課程の中では子どもたちの体験活動や作業活動を取り入れた活動が重視されました。子どもたちが身近な生活の中で具体的に接し、身体を使って調べたり、作ったり、遊んだり、育てたりする活動です。子どもたちが自分自身のこととして直接関わり、その中で模索し、工夫し、そして感動しつつ、思い切り活動に打ち込み、しかも自分の思いや願いを自分の力でやり遂げた時に味わう喜びや満足感。それによって自信を得て、いっそうやる気に駆り立てられるような活動。それには田植えこそまさに最適と考えて、実施に踏み切りました。

5年生にとって田植えは初めての経験で、田圃に入る時には、「ワアー」「キヤー」「グニャ、グニャ」「ワアア」...気持ち悪いと叫びながら、心もとなかった植える手つきも、段々と慣れるにつれて上手になりました。1時間の短い体験の中で、土の匂いが子どもたちをいい気分にした一時的でした。(大場 力)

編集後記

田植えの終わったビオトープには早くも小さな緑の稲がきれいに並び、その上をさわやかな季節の風が渡っています。木道の第2期工事も終わり、木製のきれいなベンチも出来上がりました。休日には、木の香りの残る新しい木道の上でザリガニ釣りを楽しむ親子づれの姿も見受けられます。草花が咲き乱れるビオトープでは生きものも活発な活動を再開しました。6月は生態系調査と生きもの観察、雑草取りも始まります。晴れた日には散歩がてら、ビオトープまで足を運んでみませんか。広報編集部(春山)